大観光交流年契機に 観光立県を実現

新潟県

新潟県は今年を「大観光交流年」と位置づけ、観光立県実現へ大きな一歩を踏み出した。1月1日には「観光立県推進条例」も施行し、県全体での取り組みも宣言した。NHK大河ドラマ「天地人」のスタート、３年に一度の「大地の芸術祭」、そして10月にはJRグループと連携し「新潟デスティネーションキャンペーン」（新潟ＤＣ）も始まる。不況の影響で観光業界も厳しい状況にあるが、こうした追い風を生かし、全国に新潟の魅力を発信する。

特別寄稿 新潟県知事・泉田裕彦

地域の魅力向上と受入態勢の充実図り再訪につなげる

今年は、ＮＨＫ大河ドラマ「天地人」の放送をはじめ、「新潟デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）」「トキめき新潟国体」「大地の芸術祭」など、新潟県を舞台としたたくさんのイベントが展開されます。

本県が舞台となっている「天地人」は、放送開始からこれまで「篤姫」を上回る高視聴率を維持しており、ゆかりの地をはじめとした本県への誘客につながるものと期待しております。

また、「うまさぎっしり新潟」をキャッチフレーズに開催する新潟デスティネーションキャンペーンでは、様々な機会を通じて全国に情報発信するとともに、さらなる地域の魅力向上と受け入れ態勢の充実を図り、旅行会社などの商品造成に合わせた企画提案を行っていきたいと考えております。

新潟県の本物の魅力を多くの方々に知ってもらい、地域住民とのふれあいを通じて心の絆を深め、「また新潟に来てみたい」と感じていただける取り組みを進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

新潟 デスティネーションキャンペーン

「食」テーマに 10～12月実施

新潟県は10月から12月まで、地元の観光関係者や自治体がＪＲグループと一緒になって「新潟デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）」を展開する。米、酒、魚に代表される新潟の食の魅力をメーンテーマに、地域ならではの歴史、文化、人などの物語を付加して全国に発信する。

昨年のプレイベント期間中（10～12月）の観光客入り込み数（抽出調査）は前年同期比11・2％増の約463万人と大きく増え、「各地域で実施したおもてなし企画の効果が表れた」（県観光協会）と手ごたえをつかんだ。

ＤＣ本番では食を中心としたおもてなし企画をさらに磨き上げ、豪農の館での食事体験、棚田や紅葉を眺めながらの食事、新潟芸妓を気軽に楽しむ、温泉地での特別料理の提供――など工夫を凝らしたサービスを提供する。

イベント列車の運転はもちろん、受け入れ態勢充実のため二次交通も整備する。レトロ調のバスで村上の町屋や瀬波温泉を巡る「城下町村上ルネッサンス号」の運転やニイガタ検定合格ドライバーが案内する観光タクシープランなど、様々な選択肢を用意し観光客を迎える。

「宣伝展開もＪＲグループなどと連携しながら全国に情報発信する」（同）予定だ。

▶新潟ＤＣのキャッチフレーズとメーンロゴ

天地人

関連イベント 各地で開催

新潟県などが舞台となったＮＨＫ大河ドラマ「天地人」。高視聴率で推移し、好調な滑り出しとなっている。第1回から8回までの平均視聴率は24・3％で、「篤姫」の21・9％を上回っている。ゆかりの地では「天地人」の幟旗が至る所に立っており、観光客をドラマの世界に誘う。

南魚沼市では「愛・天地人博 南魚沼」、上越市では「越後上越 天地人博」といった「天地人」関連のイベントが開かれており、甲冑着用体験やスタジオセットの再現などでドラマの世界を体験できる。また、ゆかりの各地の料理店では上杉軍の出陣の際の言い伝えにちなんだ料理も提供する。

このほか、「兼続公まつり」（南魚沼市・8月予定）、「長岡まつり『天地人花火』」（長岡市・8月予定）、「謙信公祭」（上越市・8月）など関連イベントも目白押しだ。

イベント会場や関連施設をめぐる定期観光バスやシャトルバスの運行など二次交通も整備され、観光スポット見学には便利だ。「天地人」ゆかりの史跡や食などを紹介する旅行者向けガイドブックも制作されており、「天地人観光」には欠かせない。

ゆかりの各地を案内するボランティアガイドも活動しており、受け入れ態勢を整えている。

豪農の館「北方文化博物館」は登録有形文化財でもある（新潟市）

米どころの新潟、ぬか釜で炊くご飯はまた格別（写真左）。写真下は兼続と上杉景勝が少年期に学問を学んだ雲洞庵（南魚沼市）

花満開 春の新潟

雪割草、カタクリ…「天地人」ゆかりの地と花めぐる旅

春の新潟の見どころの1つは、花。県の草花に指定された雪割草に出会える「越後雪割草街道」や坂戸城跡のカタクリの群生、高田城百人観桜会、角田山・弥彦山周辺の山野草など、「天地人」ゆかりの地と花を巡る旅は「この春の一押し」と県観光協会は自信を持って勧める。

雪割草は昨年3月に「県の草花」として指定された。大崎雪割草の里（柏崎市）、雪国博物館（長岡市）、国営越後丘陵公園（同）は越後雪割草街道で結ばれ、連携しながら雪割草の魅力を伝える。

雪割草は雪解けを待って一斉に咲き出す。「斜面いっぱいに、まるで宝石を散らしたように咲く光景は残雪の中の春」とも形容される。

雪割草の咲く3～4月には「越後雪割草街道スタンプラリー」が実施され、スタンプを集めると豪華商品が当たるのも魅力だ。

直江兼続が仕えた上杉景勝。上田庄（現在の南魚沼市六日町）一体が見渡せる坂戸城の藩主、長尾政景の子として生まれた。その坂戸城跡はカタクリの群生地として知られる。

見ごろは4月中旬から。ＪＲ六日町駅から歩いて20分ほどで、標高634㍍の坂戸山登り口に着く。頂上まではゆっくり歩いて1時間20分ほど。山道からふと周囲に目をやると至る所にカタクリの群生が。「淡い紫色、可憐な印象のカタクリを群生の中からじっくりと眺めてほしい」と関係者は言う。

高田城のある高田公園（上越市）の桜はその数約4千本。復元された三重櫓、堀に桜が生え、桜のトンネルのような花ロードをそぞろ歩く人は100万人を超える。夜、ライトアップされたさまも美しく、「日本三大夜桜」とも称される。百万人観桜会は高田公園で4月3～19日まで開かれる。地元の特産・名産品を販売する物産展や300の露天などが出て賑わう。

ライトアップされた高田城の桜（上）と可憐な雪割草（左上）、坂戸城跡のカタクリ群生（左下）

大地の芸術祭

3年に一度開催 今年は7月から

「大地の芸術祭」は越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）の里山を舞台に3年に一度開かれる世界最大の国際芸術祭。今年は、「越後妻有アートトリエンナーレ２００９」と題し、7月26日から9月13日まで開催される。

26カ国・地域から約150組のアーティストが参加する。

集落や棚田、森の中に新旧合わせて約300点のアートが展示される。2回に渡って実施された公募（応募総数約620点）から選ばれたアーティストをはじめ、約150人のアーティストが腕を競う。

地域にあるものを生かすという芸術祭の精神のもと、今回は集落・地域のよりどころである学校（廃校）を生かした取り組みが行われる。

これは「廃校プロジェクト」と呼ばれ、例えば、絵本と木の実の美術館として旧真田小を絵本、民話、農業、ワークショップなどをコンセプトとした美術館に再生する。田島征三氏の作品を中心に据え、カフェやワークショップなど様々な活動を生み出す施設を目指す。

このほか、カンボジアサーカス、ワールドミュージック&パフォーマンスなどのイベントも繰り広げられる。

豊かな自然と食材の宝庫

髙木　言芳
ＪＲ東日本執行役員新潟支社長

皆さんは新潟の茶豆をご存じですか。外見は枝豆と同じですが、これをゆでた時の香りと味わいは「うまい！」の一言です。新潟県民はこの茶豆を夏になると、丼やザルに入れておやつ代わりやビールのつまみとして毎日のように食べていますので、1人当たりの枝豆消費量は全国屈指と言われています。

こんな「うまさ」を詰め込んだ「うまさぎっしり」をメーンテーマとしたデスティネーションキャンペーンがこの秋、新潟・庄内で開催されます。全国からのお客さまを雪国ならではの人情溢れるおもてなしでお迎えします。

新潟県及び山形県庄内地域は2千㍍級の山並みに囲まれ、その豊富な雪解け水が日本一の大河・信濃川や阿賀野川に流れ、越後平野を潤し、おいしい米をはじめ、多くの野菜や果物を産出しています。

また、河川からの恵みが日本海の豊富な魚介類を育て、一部は地下水となって醸造に最適な清水となり、端麗な日本酒や芳醇な醤油、味噌などの醸造・発酵食品が生み出されています。

こんな豊かな自然と食材の宝庫である新潟・庄内への皆さまのご来訪を心よりお待ち申し上げております。

米どころ酒どころ そして四季の喜びが

後藤　靖子
国土交通省北陸信越運輸局長

ＮＨＫ大河ドラマ「天地人」が始まりました。新潟、会津、山形を舞台に生きた上杉の武将・直江兼続の物語。ストーリー展開ももちろんですが、その風景も毎回楽しみです。

一面の雪景色、水をはった棚田、稲穂が金色に輝く実りの秋、他国とつながる海、人々の暮らしを見守る山々。戦国の乱世に「愛」と「義」を掲げたその生き様は、この地で生まれたのです。風景と人はともに歴史の蓄積の中で存在します。

新潟は何と言っても米どころ酒どころ。でもそれだけではありません。春を告げる雪割草、カタクリ、カンゾウなど可憐な花、夏を彩る花火、紅葉、雪祭り。この地には四季の喜びがあります。

また、北前船などの交流の歴史が育てたまちの表情が、一歩踏み込んで歩いてみると今も存在し、一方で大地の芸術祭など新しい芸術と文化の創造もなされています。

この地にいる私たちは、ここだけにしかない魅力を発掘し磨き伝え、持続できる観光地を目指します。こうご期待。

安心・安全・美味しい新潟の宿

野澤　幸司
新潟県旅館組合理事長

新年から始まったＮＨＫ大河ドラマ「天地人」は主人公、直江兼続ゆかりの地、新潟がスタートの舞台となり、視聴率は昨年の「篤姫」を上回る好調なスタートになりました。

幼少期の兼続（樋口与六）演ずる「わしはこんなとこ来とうはなかった」に涙された人も多かったのではないでしょうか。

その「こんなとこ！」新潟県では、今年「うまさぎっしり新潟」をテーマに地場産、食材をたっぷり使った「安心・安全・美味しい」新潟の宿を売り出しています。豊かな新潟の自然・歴史・文化・人情を感じる旅が盛りだくさんです。

新潟は今年「トキめき新潟国体」が開催されるとともに、10月から始まる「新潟デスティネーションキャンペーン」の全国展開もあり、年間を通して、新潟県内各地でイベントが目白押しです。

詳しくは「にいがた観光ナビ」をご覧ください。（http://www.niigata-kankou.or.jp/）

新潟県は今年を大観光交流年として「こころにふれるおもてなし」で皆さまをお迎えいたします。ぜひお越しください。